



今でも男と女。

梅雨の暗れ間に、スーツを陰干ししていた。ふと、普段は着ない一着に目が止まった。

「スーツは細番手に限る」

と趣味人の先輩に勧められ、背伸びして買ったストライプのダークスーツ。昔、妻にプロポーズしたときのスーツ。

「あら、なんか素敵ね」

遅れて店にきた彼女は、僕を見るなりそういった。デートはもっぱら休日だったから

スーツ姿が珍しい上に、勝負スーツだ。

早々に効果があった。

「仕事だったの？」

いや、これから大仕事が……軽く切り出

そうかと思ったがいざ口を開くと、アガって

言えなかった。その後、どう打ち明けるか

ばかり気になり、恵比寿の老舗のイタリ

アンで、何を食べ、何を話したのか、まるで

記憶がない。ただ、どう切り出しても結局

「ところで」と改まらざるを得ないと思った

僕は、彼女がトイレに立った隙に、テーブル

に指輪を置くことにした。急遽のサブライズ

類み。あの日、席に戻って来た彼女の姿は、

忘れられない。

結婚後、そのスーツは結婚記念日専用
スーツになった。

「毎年それ着て出かけてね。

そしたら、プロポーズした

ときの気持ちを思い出すでしょ」

とっかの映画かコミックが元ネタか。

妻がそう言った。

6、7年は続いただろうか。

あいにく三十の半ば近くから体型がキープ

できず、着られなくなった。それでも、結婚

記念日にはクローゼットから取り出して、

飾っておくことにしている。ぼーっと眺めて

いるだけで、確かに、普段は埃をかぶっている

あの日の気持ちを思い出すのだ。そういや

妻も、元は恋人だったのだと。

今年こそは体を絞るぞ。

そう思って、先月から走っている。

そろそろ効果が出ているだろうか…。

仕事だけは軽やかに、

僕は上着を羽織ってみた。

生き方を、包む。

D'URBAN

www.durban.jp